



荒 貴賀
議員
(日本共産党
幕別町議員団)



全国学童保育連絡協議会の2014年度から2015年度の調査によると、学童保育は全国で2万5541カ所、101万7429人が利用し、そのうち新一年生の77%が学童保育に通っている。拡大する共働きやひとり親家庭の増加に加え、いまや、学童保育は子育て家庭にとってなくてはならない施設になっている。

さらには、地域での仲間づくりが少なくなり、子どもたちが人間関係を学び合い集団性・社会性を身に付けていくうえでも、学童保育が重要な役割を果たしている。

2012年「子ども・子育て支援法」の制定と「児童福祉法」の改定により学童保育は新しい法制度のもと2015年4月からスタートした。さらなる学童保育の充実について、以下の点について伺う。

(1)幕別町の学年ごとの利用実績と今後の利用見込みについて。
(2)支援が必要な子どもと学校との連携について、また、支援が必

問 学童保育の充実について

答 保育時間については、多子世帯の保育の実態や保育体制の確保の観点から調査検討を進める

要な子どもたちへの支援員の配置を行うべきではないか。

(3)保護者の要望である学童の時間延長はできないか。

(4)定員を超過しているつくし学童保育所の施設拡大を検討するべきではないか。

(5)子どもの豊かな育ちの場になるかどうかは、日々直接子どもとかわる指導員・行政支援にかかっている。指導員は臨時職員であり、待遇の改善は必要ではないか。

(6)指導員の研修実施状況と今後の計画は。

町長 (1)学童保育所の利用実績

(在籍状況)と平成28年度の利用見込みは下表のとおりである。

(2)学童保育所は、授業終了後に児童が生活の場としていることから、学校との連携は大変重要であり、在籍児童の学級通信のほか適宜指導員と教職員が情報を交換し、連携をしている。

また、支援が必要な子どもに対する支援員の配置は、行事や長期

休業中などは必要に応じて指導員を加配して児童の支援をしており、今後においても、必要に応じて配置することにより対応したい。

(3)保育時間については、平成23年度に実施した保護者アンケートの結果を踏まえ、24年度から土曜日を除き、30分間延長し、現在は午後6時30分までとしている。

	(1)学童保育所の在籍状況(平成27年12月1日現在)						H28の利用見込み
	はぐるま	あすなろ	つくし	やまびこ	ちゅうるい	総数	
1年生	14	17	53	31	8	123	110
2年生	10	15	56	13	7	101	120
3年生	10	15	33	11	4	73	90
4年生	6	11	8	0	1	26	45
5年生	0	0	1	0	2	3	20
6年生	0	0	0	0	0	0	5
合計	34	58	151	55	22	326	390

今後、多子世帯の保育の実態や保育態勢の確保の観点から調査検討を進めるとともに、保護者の考えを聞きながら対応していきたい。

(4)平成29年度を境に児童数の減少が見込まれることから、新たな施設改修については考えていないが、併設する南コミセンの活用も視野に入れ、子どもたちが放課後を安全・安心に過ごせる場所を確保するよう努めていきたい。

(5)子どもの生活と育ちに関する専門性を有する職員が保育に携わることが重要であることから、中学校等の校長や教頭の経験者を主任指導員に、また保育士や幼稚園教諭の経験者を補助指導員に選任し、配置している。

勤務形態については、通常の1日の勤務時間が4時間30分であることから日額臨時職員として任用しているが、社会保険や雇用保険、非常勤公務災害保険に加入し、良好な労働条件の確保に努めている。

(6)毎年、北海道主催の「地域の教育支援活動推進研修会」に参加し、放課後支援、保護者等への相談対応、家庭教育支援等の研修を受けており、今後は、学校支援員の研修や保育所の療育研修への参加など、指導員の資質の確保・向上を図るための研修に努めていく。